

トピック ― 野菜の小売価格について ―

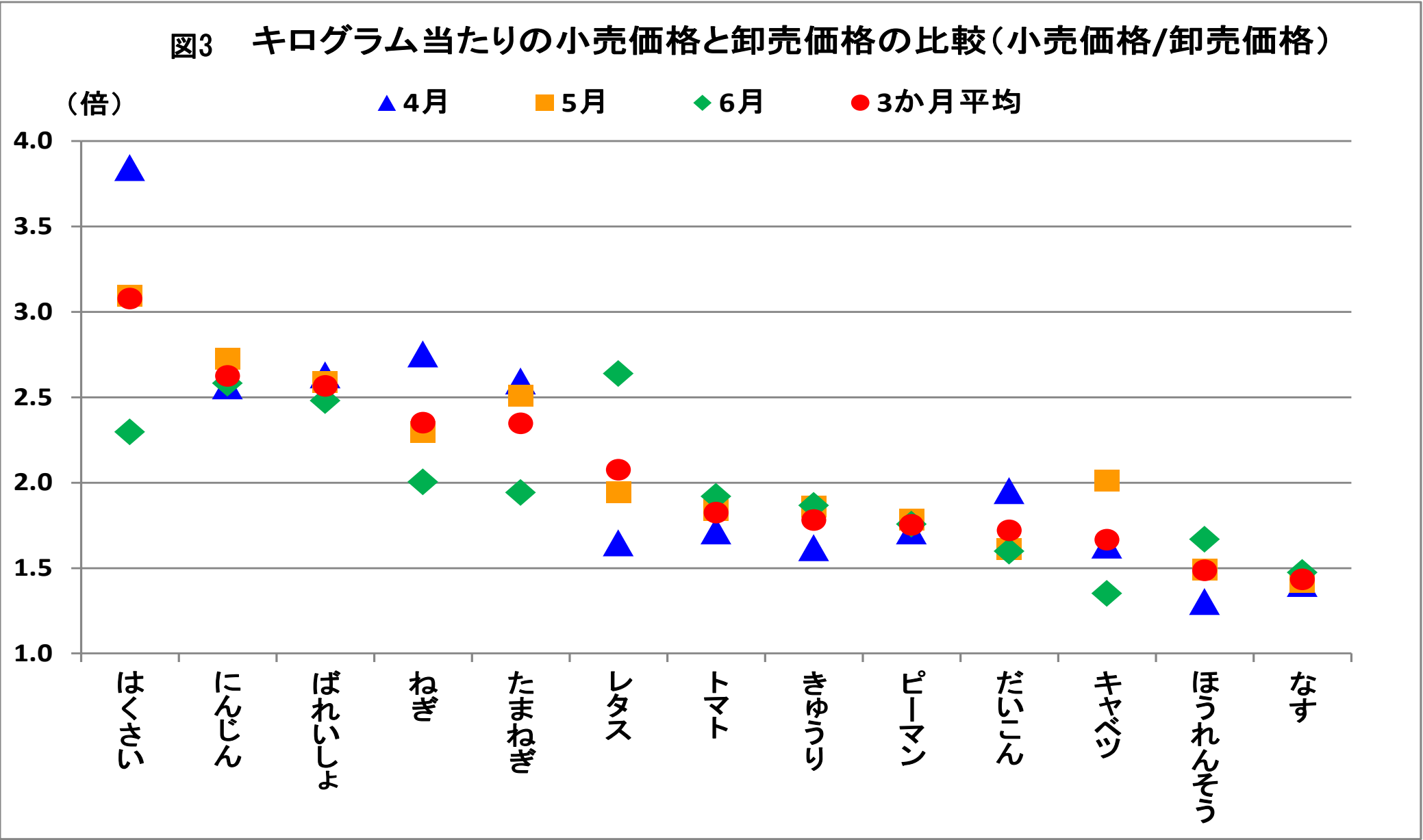
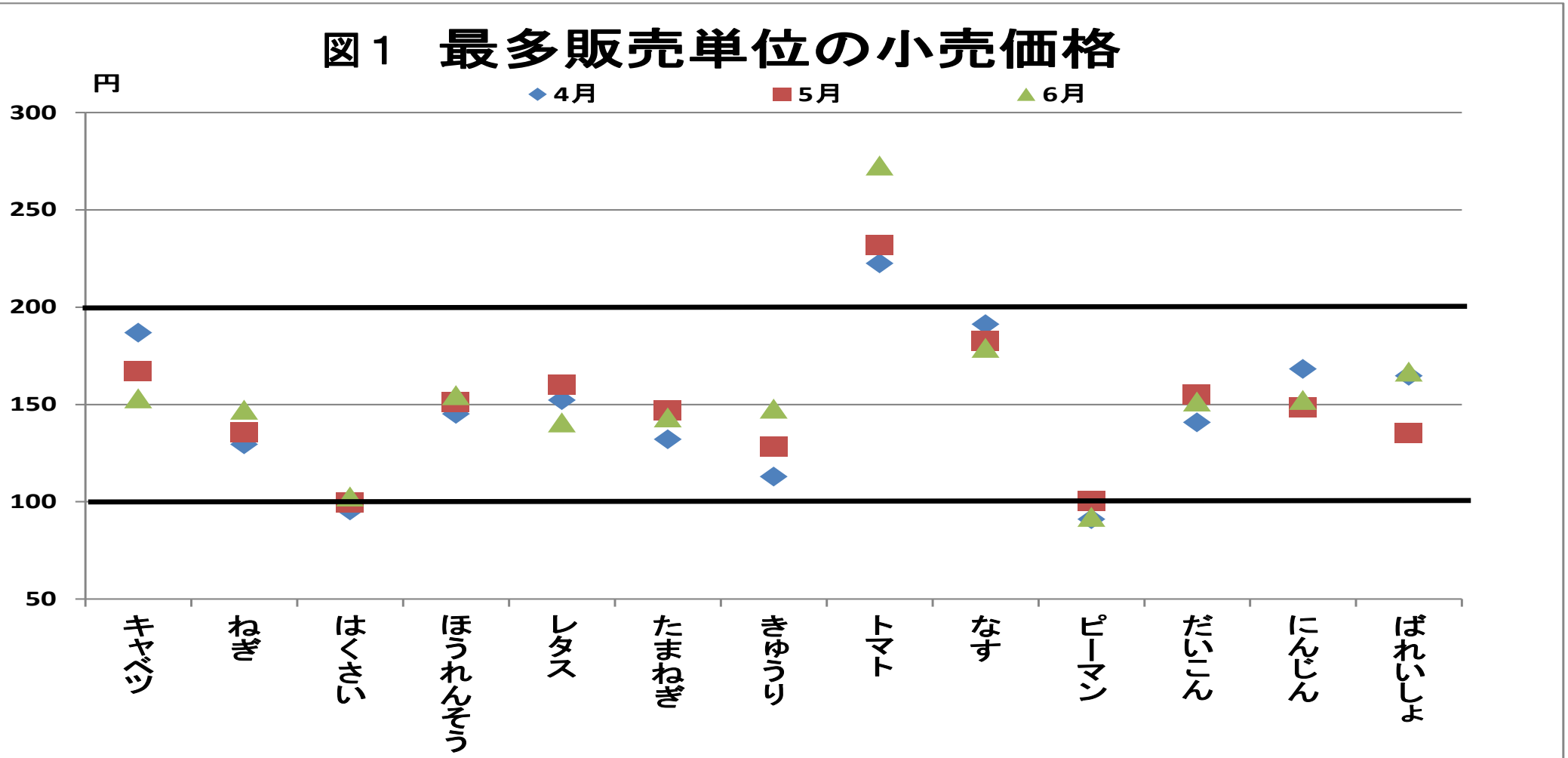
本年4月から主要9都市における野菜の小売価格の調査を行っており、6月までの3か月の動向について見てみた。

最多販売単位の小売価格は、トマト以外の野菜は、おおむね100～200円の範囲内にあった。野菜は、調理の素材として利用されることが多いが、値頃感がおおむね100円台に設定されていることがわかる。一方、トマトは、200円台で販売されており、他の野菜よりも高く販売されている。

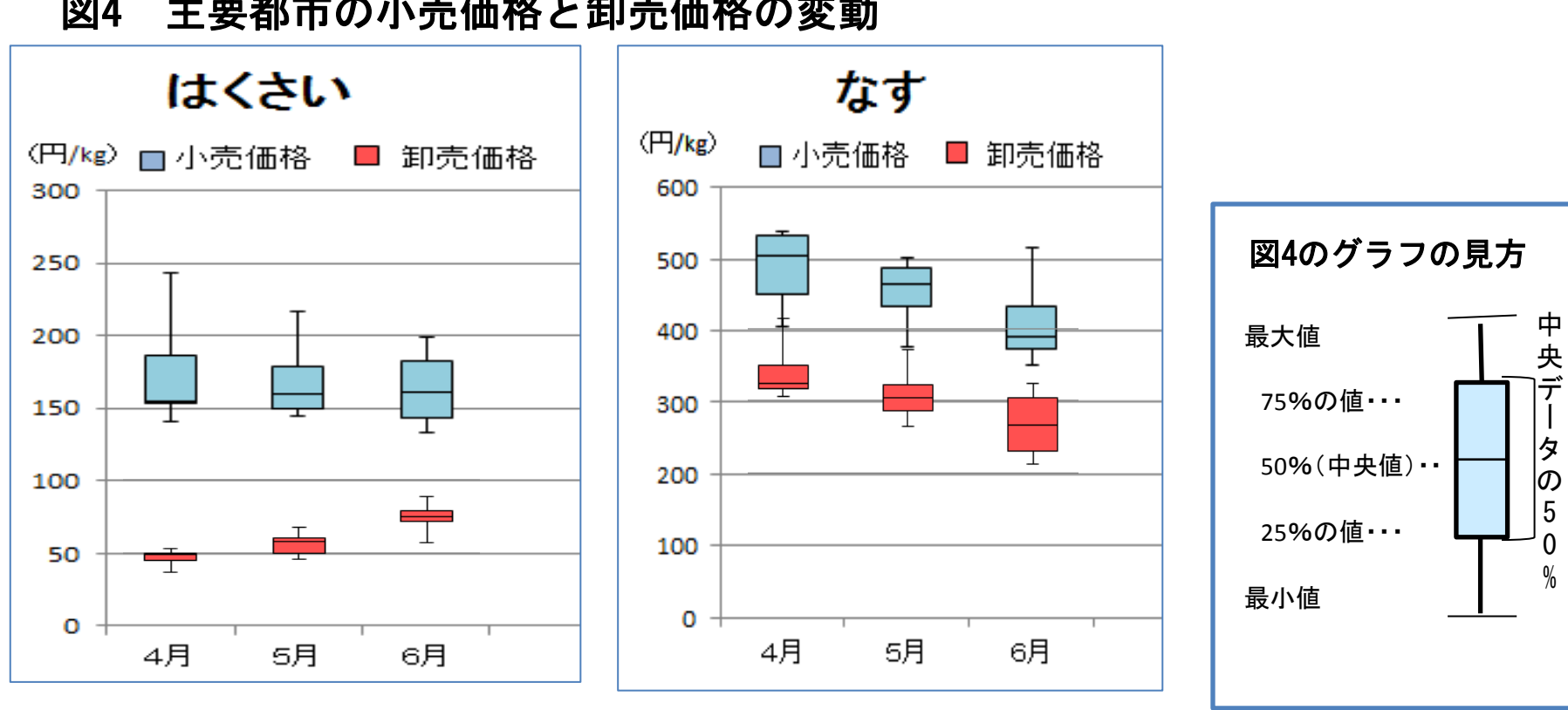
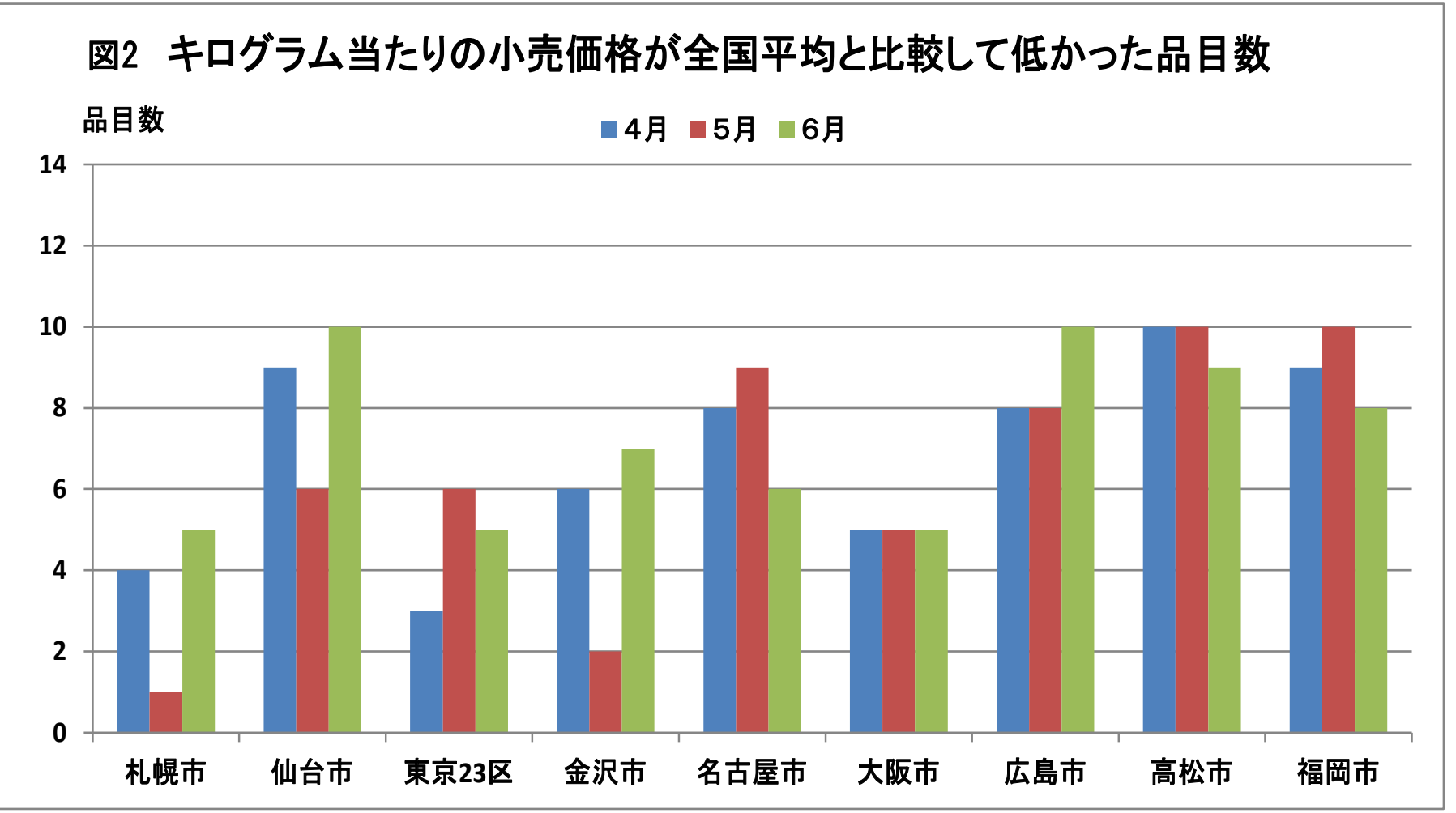
また、主要9都市のキログラム当たりの小売価格を全国平均と比較すると、名古屋、広島、高松、福岡等が全国より低い品目が多い傾向が見られるが、この時期の産地が東海や西日本に多いことも一因ではないかと考えられる。

なお、キログラム当たりの小売価格を同時期の卸売価格で除して比較すると、この3か月間では、はくさいが一番倍率が高く、次いで、にんじん、ばれいしょの順となっている。一方、なすやほうれんそうは、低くなっている。また、変動が大きいのは、はくさい、レタス、キャベツ等の葉茎菜類で、なす、ピーマン等の果菜類、ばれいしょ、にんじん等は変動が小さい状況が見られる。これは、販売単位ごとの小売価格を値頃感のある範囲に納める必要がある中で、どちらかというと葉茎菜類は販売単位の変更ににくいものの、果菜類等は販売単位の変更がしやすいことも影響しているものと考えられる。

野菜の小売価格については、今後も引き続き調査することとしており、いろいろな場面で活用していただきたい。調査結果は、こちらから。



資料：農畜産業振興機構「野菜小売価格動向調査」、農林水産省「青果物日別取扱高結果」



(注)

- 札幌市、仙台市、東京23区、金沢市、名古屋市、大阪市、広島市、高松市、福岡市の9都市で、月1回(原則として毎月第2金曜日)、調査を実施。1都市について、10店舗調査。調査品目は、さといもを除く指定野菜13品目。
- 「最多販売単位の小売価格」は、品目ごとに1店舗につき一番販売面積が広いと報告された販売単位の小売価格で、図1は品目ごとの平均値をグラフにした。
- 「キログラム当たりの小売価格」は、1店舗につき1つ報告されたkg当たりの価格の平均値。
- 図3で使用した「卸売価格」は、全国の主要な中央卸売市場(10市場)の卸売価格の平均値で、図4の「卸売価格」は、調査都市にある中央卸売市場の調査日が属する旬の卸売価格。
- 図4は、はくさい及びなすの9都市の小売価格及び卸売価格のパラツキをグラフにした。

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 村野、三部、須藤、山田 TEL03-3583-9483、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。

◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はペジ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。

★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.html に掲載しています。